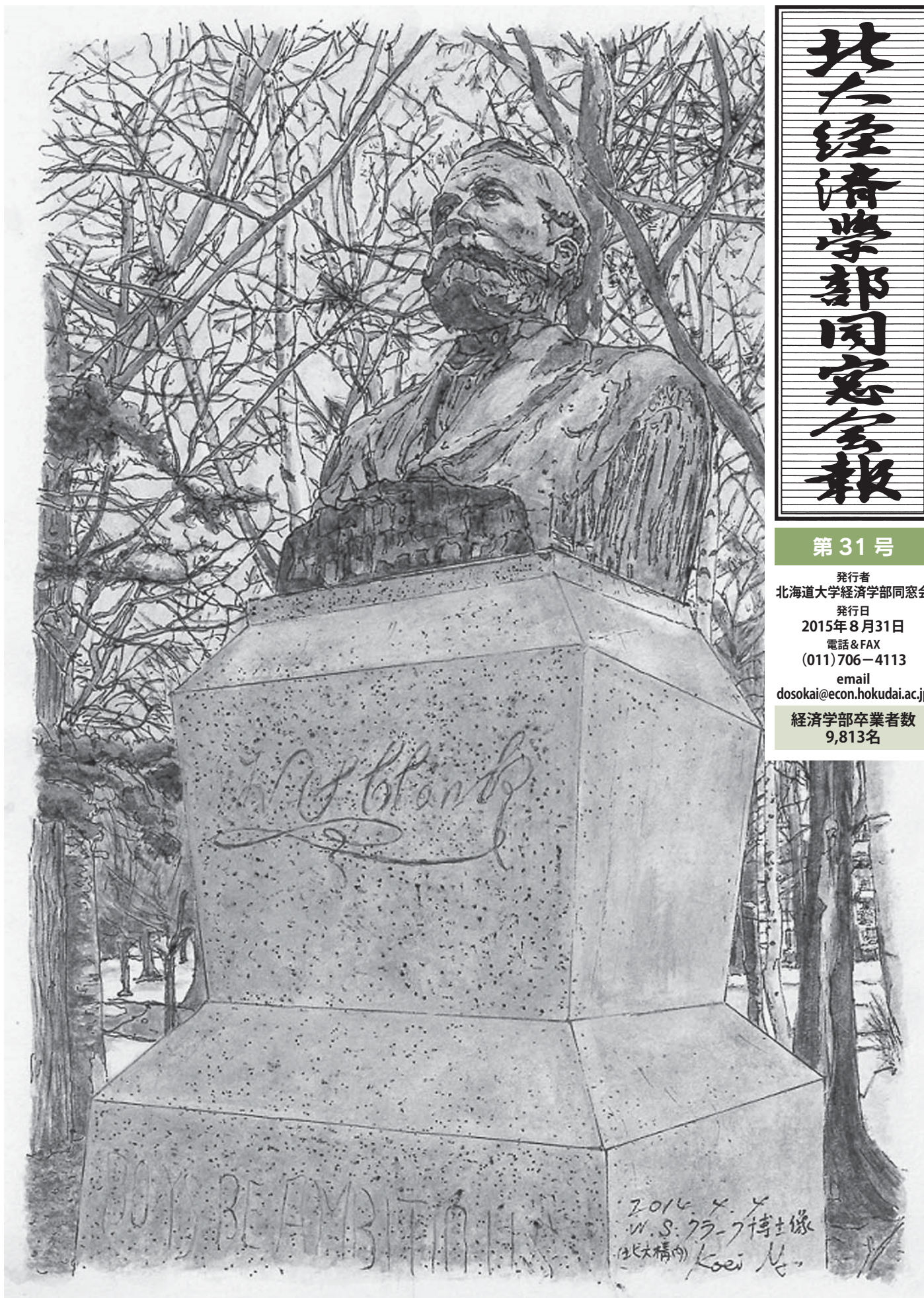




北大経済学部同窓会報

第 31 号

発行者
北海道大学経済学部同窓会
発行日
2015年8月31日
電話&FAX
(011)706-4113
email
dosokai@econ.hokudai.ac.jp
経済学部卒業生数
9,813名

同窓会費のお願い きびしい台所事情続いています

いつもお振込をいただき、ありがとうございます
同窓会の諸活動や会員への連絡などは、言うまでもなくすべて皆様からの会費でまかなっております。
昨年度も「終身会費」をはじめとして多くの方々に年会費をご入金いただきました。
同窓会事務局ではこれらの貴重な会費を一元も無駄にしない覚悟で、予算範囲内の活動を続けております。
法人化以降、大学は同窓会に対して様々な面で多くの期待を寄せてきています。今後は同窓会としてもこれを正面から受け止めて責任ある対応をしていかねばなりません。
また、同窓会相互の親睦や交流の場も増やしていきたいと思っています。
会員各位におかれましては事情をご理解賜り、会費納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。
なお、コンビニからの入金が可能となりました。振込に際しては用紙をご確認のうえ、宜しく願い申し上げます。

年会費 3,000円 終身会費 30,000円

振込方法

- 郵便局、コンビニの場合
同封の「振込取扱票」にてお願い致します。払込料は同窓会負担。用紙にご注意。
- 銀行振り込みの場合
北洋銀行本店営業部 普通 0666955 北大経済学部同窓会 会長 上野昌美
北海道銀行本店営業部 普通 0754677 同上

○住所、勤務先などの変更については、事務局までお届け下さい。特に本学部の卒業生は転勤も多くつい届け出を忘れがちで、毎年かなりの会報が「宛先不明」で返ってきます。メール、電話を宜しくお願いします。



(株)ブライダルは北海道大学経済学部同窓会の皆様の「結婚」を応援します。

37年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に北大校友の皆様には平成18年より「北海道大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「北大経済学部同窓会報」を見たおっしゃってくだされば、校友の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させて頂きます。

北海道大コース

登録料 **50% OFF**

ブライダルコース ¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.

エクセレントコース ¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.

●価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。



下のQRコードにて携帯サイトに簡単にアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)

株式会社 **ブライダル**
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
大阪支社 〒530-0001 大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング6F

お問い合わせ (月曜定休) **0120-415-412** ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>
携帯サイト <http://www.bridal-vip.net/m/>



QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

ごあいさつ



北大経済学部
同窓会会長
上野 昌 美
(昭和47年卒業)

北大経済学部同窓会員の皆様に、同窓会報第31号をお届けします。

北海道大学は2015年度が第二期中期目標期間の最終年度となり、最終年度としての目標達成に向けて努力を続けるとともに、2016年度から始まる6年間の第三期中期目標期間の策定の最終段階に入っています。国立大学へは教育・研究分野において大きな期待が寄せられていますが、他方では急速に進展するグローバル化などの環境変化に対応すべく改革の推進も求められています。今では大学を産学連携の拠点とし、研究力で自主財源を確保する要請が強くなり、この結果理系の学部が注目が集まり、人文社会科学系の見直しが文部科学省によって要請されるまでになりました。吉見宏経済学部長のご寄稿では、研究院への組織変更、国際食資源学院の創設への積極的参加など、第三期中期目標期間に向けた構想が語られています。経済学部同窓会は、経済学部の今後の動向をしっかりと見守り、応援していきたいと思っています。

北海道大学の全学同窓会である連合同窓会でも改革へ向けての取り組みが進められています。連

合同窓会は、地域同窓会、学部同窓会の連合体として組織されています。連合同窓会では、北海道大学の同窓会組織のあり方について検討会を設けて検討を進めており、本年6月の総会でその中間報告が行われました。報告では重要な提言がいくつもなされましたが、注目すべきは以下の三点です。まず、

第一に、連合同窓会の構成員を卒業生だけでなく、在校生、教職員など全ての北海道大学関係者に拡大すること、第二に組織整備のため会費を新入生から徴収すること、第三に連合同窓会が中心となり、地域同窓会や学部同窓会を支部とする体制整備を行うこと。すぐにもこういう体制に移行するわけではありませんし、会費の徴収方法をはじめ、地域同窓会や学部同窓会との関係などはこれから整理してゆくことになるでしょう。しかし、大学が改革を推進するのと並行して、同窓会組織を強化してゆくには、こういう組織再編へと進まざるを得ないと思います。

経済学部同窓会は、会員の親睦を深めることを本来の目的としているわけですが、大学や経済学部との連携、連合同窓会の構成員としての役割など、従来とは異なっ

たあり方がますます問われてきました。同窓会員の皆様のご協力を得ながら、こういった課題に対処していきたいと思っています。

こういう環境下では、同窓生の皆様は北海道大学および経済学部の現状をよく知る必要があります。ホームカミングデーはその良い機会です。経済学部同窓会はホームカミングデーの開催に合わせて総会、懇親会を開いております。本年は経済学部、法学部、文学部、教育学部の文系四学部が合同して記念事業を開催する予定ですので、同窓会も文系四学部の合同懇親会を予定しています。経済学部同窓会の皆様もホームカミングデーの四学部合同の記念事業と合同懇親会にご参加くださいますようご案内申し上げます。

経済学部同窓会の変わらない目的のひとつが経済学部同窓生の親睦と情報提供です。本号でも、吉見宏経済学部長から経済学部の近況についてのご寄稿をはじめとして、同窓生の方々からも多数の近況報告が寄せられました。本号にご寄稿くださいました皆様並びに会報作成にご協力くださいました皆様に心から感謝し、ごあいさついたします。

言 頭 卷 時代の変化を受けた「研究院」化の意味



大学院経済学研究科長・
経済学部長
吉 見 宏

同窓会の皆様には、日頃から経済学部・大学院経済学研究科の活動に支援を頂き、大変ありがとうございます。

さて、すでに報道等でもご存じのように、国立大学は現在様々な改革の渦中にあります。特に、「少子化の中、国立大学に文系学部は必要なのか」などと問われ、時代に合った文系の再編を強く求められており、それは北大をはじめとするいわゆる旧帝大7校においても例外ではありません。また、国際化の推進も国から強く示唆されているところであり、北大も「スーパーグローバル大学」トップ型13校の1つに採択され、今後全学をあげて国際化事業を進めていかねばなりません。

これらの学内外の動きに対応して、北大経済学部・経済学研究科は、平成29年度からの「研究院」化に向けて組織変更を行うことを決定いたしました。現在、組織上、教員は「経済学研究科」という大学院の組織に所属し、「経済学部」には教育のために教えるに行っている、という形式を取っています。これは、いわゆる大学院大学の形式なのですが、大学院である「経済学研究科」の部分を、教員が所属する「経済学研究科」と、大学院学生が所属する「経済経営学院」にさらに分離する、というのが今般の構想です。なお、学部学生が所属する組織は、「経済学部」のまま

変わりません。

現在、北大では多くの組織がこの「研究院」の形態を取っており、文系では教育学研究院が該当します。平成29年度に向けては、経済学研究科のほか、医学研究科、獣医学研究科、歯学研究科の4部局が研究院への移行に向けて手続きを進めています。

なぜそのような組織変更をするのかといえば、それは冒頭の、時代の変化に伴う大学の変化の要請に応えることに他なりません。北大は、大学全体として、そのような求めに対して、新たな国際大学院（教育組織）をつくることで対応しようという方針を打ち出しています。これらは学生のみが所属する「学院」として設立されるため、ここで教える教員は、各研究院からいわば派遣される形になります。研究組織を学生が所属していない研究院にすることで、このような改編に柔軟に対応できることとなります。

たとえば、平成29年度からは、3つの新たな大学院が生まれる予定です。このうち「国際食資源学院」は、土作りから流通まで「食」について一貫した大学院教育を行うコンセプトを持っています。国際大学院なので、講義はすべて英語が原則です。この新しい大学院は、基本的には農学研究科を中心に教員が構成されますが、経済学研究科もこれに加わります。すなわち、経済学研究科所属

の一部の教員も、国際食資源学院の教員として教壇に立つことになるわけですが。

一方で、新生の「経済経営学院」には、農学研究科からの教員も加わる予定になっており、地域経済に強い教員を得て新たな経済の大学院教育が行われることとなります。

このように、新たなステップへ踏み出しつつある経済学部・経済学研究科ですが、国からいただいたいる運営費交付金は着実に減少しており、それは本学部にとっては大きな痛手となっています。国立大学法人は、運営費交付金に代わる外部資金の獲得を強く求められているところであり、事実その努力は喫緊の、かつ継続的に進めるべき課題ともなっています。

このような側面からも、同窓会と大学との緊密な連携は欠かせないものと考えております。ホームカミングデーの開催は、大学としてのその取り組みですが、経済学部・経済学研究科にあっても、ここまで同窓会の皆様のご協力の下、その開催を行ってきました。特に本年度は、文系4学部の合同イベントを、経済学部の主催で行うこととなります。ホームカミングデーおよび、同窓会の企画等にご協力いただく参加いただき、もって変化する経済学部・経済学研究科を見守り、支えていただけるとを切にお願い申し上げます。

～ 文系共用講義棟 2F に北大生協の文系ミニショップができて、一年が経ちました ～

お弁当をはじめ、飲料、お菓子等を販売しており、食堂に行く時間がない時や、講義のちょっとした合間で皆様にご利用されています。毎日 200 名程度の学生さん達が訪れ、お昼のピーク時には賑わいを見せています。また、担当の職員も学生さんに、「今日は元気ないね、どうしたの？元氣出して！」等、学生さんと毎日対話し、販売するだけではなく、様々な面で少しでも学生の皆さんの力になれるよう、営業しております。お近くに来た際にはぜひ、お立ち寄りください。

(北大生協中央店 店長 工藤)



【営業時間】 平日 10:00 ～ 13:00 土曜 休業 * 閑散期の営業時間変更有り

北海道大学生協同組合 理事長 柿澤 宏昭
札幌市北区北 8 条西 7 丁目 TEL. 011-746-6218

大学生協北海道事業連合 理事長 吉見 宏
札幌市北区北 8 条西 7 丁目 TEL. 011-726-9148

北海道大学認定

同じ札幌の地で歴史を育む「札幌唯一の酒蔵 千歳鶴」が、創業140余年の伝統の技で丹念に醸し上げました。原料米は北海道が誇る酒造好適米「吟風」を使用した北海道産100%のこだわりの逸品です。

梅酒
雪の天使たち

180ml詰
822円(税込)

大吟醸
ポプラ並木

500ml詰
2,900円(税込)

特別純米
ポプラ並木

500ml詰
2,400円(税込)

お問合せ先

札幌市北区北8条西7丁目
北大グッズ受注センター ⑨エルムプロジェクト 担当/近澤
TEL011-708-0388 FAX011-708-0389 http://www.hokudai.seikyoku.ne.jp

札幌市北区北8条西4丁目(北大構内)
北大ショップ 北大交流プラザ エルムの森ショップ
TEL011-708-7540

売上金の一部は、北海道大学の運営費に充てられます。

●お酒は20歳になってから。●妊娠中・授乳期、また自動車・機械等の運転前、運転中の飲酒は避けて下さい。●お酒はおいしく適量を。●表示価格はメーカー希望小売価格(税込)です。

日本清酒株式会社 札幌市中央区南3条東5丁目2番地 ☎011-221-7106 http://www.nipponseishu.co.jp

昨今の経済学部 経済学部での会計学教育



米山 祐司
(昭和56年卒業)

北大に入学してから40年近くがたちました。入学した頃は文系学部の入学生500名ほどがすべて教養に所属し、2年次に各学部へ移行振分となる時代でした。なお、その後、北大では学部単位での入試になりましたが、最近、われわれの時と同じく入学時には所属を決めず、2年次になってから所属学部を決める総合入試という形で入試も行われるようになり、経済学部では入学定員190名のうち、30名がこの形で入学者となっています。

私の教養、学部時代は山スキー部というクラブに所属しており山とアルパイトに明け暮れる日々でしたが、大学院に進学する機会を得て、大学院の後に経済学部の助手となりました。その後、釧路公立大学と札幌大学で会計学を教え、平成17年に会計専門職大学院が設立された際に北大に着任しました。学部ゼミと大学院では早川豊助教授(当時)のもとで会計学を専攻しましたが、経済学部と経済学研究科での会計学の教育はあの頃と現在では大きく変わってきています。今の経済学部・大学院での教育の一端としてその変化について紹介したいと思います。

学部時代の会計学の授業は、菅原秀人教授の「会計学総論」と早川豊助教授の「原価計算論」でした。菅原教授の授業では簿記と会計制度・理論を、早川助教授の授業

は原価計算とアメリカにおける会計基準設定についての内容でした。1980年代、大学院では会計学を専攻する学生は私1人で、助手の頃も後続の学生は現れていません。そのため、大学院での会計学の授業は両教授との1対1での「演習」のみでした。もっとも、その頃の大学院の入学者も全分野で年間数名程度でしたが、当時も経済学部から公認会計士となった方は何人もおられると後で知ることとなりましたが、そのころ会計学はかなりマイナーな領域でした。

一方、現在では、学部では「簿記論」「財務会計論」「管理会計論」「監査論」の基本4科目があります。教員も会計の各分野で7名が授業を担当しており、会計学関連のゼミ所属の学部学生、大学院生もそれに応じた人数になっています。私が北大を離れた後の1990年代頃からは、大学院で会計学を専攻する学生や、公認会計士や税理士の資格試験を目指す学生が増えてきており、早川ゼミでも多くの後輩が公認会計士や税理士等になってきています。これは時代の要請でもあったかと思っています。世紀の変わり目の頃にはいわゆる会計ビッグバンといわれる大規模な会計制度改革が起りましたが、これは制度の国際的対応を図り、経済社会における基盤として会計情報

を拡充する方向でした。大学院の方では、会計専門職大学院(ア

カウンティングスクール)もこのような社会的要求に応じて、既存の現代経済経営専攻とは別の専攻として経済学研究科の中に新たに設立されました。国立大学では東北大学と北大の2校となります。専門職大学院として北大には他にも法科大学院や公共政策などがありますが、従来からの研究型大学院とは異なり、この専門職大学院は分野におけるプロフェッションを養成することを目的としています。修士の学位までですが、2年間で多様な科目を多く履修することが求められます。会計分野だけでも35科目が用意され、他に経済学、経営学、法律、ファイナンス、情報分野の科目が配置されています。特に現役の公認会計士や金融庁からの実務家教員による教育や事例研究のような科目はこの大学院の特徴となるかと思っています。私の学生時代から思うとまさに隔世の感というところでしょうか。会計専門職大学院は昨年10周年を迎えました。定員20名で、今までに192名の修了生を送り出しています。70名が公認会計士となりましたが、他にも修了生は公務員や民間企業で活躍しています。北大の経済では、大学院ではありますがこのような教育も行ってきています。

和氣諒諒しかし惜敗、
経済学部の4連勝ならず

伝統の一戦、第35回「経済学部・法学部同窓会対抗ゴルフコンペ」が5月30日、好天の札幌エルムカントリークラブで行われました。選挙の関係等で日程が合わなかった方が多く、17名の参加者は日頃鍛えた腕前を遺憾なく(?)発揮しようです。無事ケガもなくプレーしたあとのパーティーでは、かね彦中島社長のご厚意による豪華賞品が入賞者に配られました。

この大会は上級者の集まりではけっしてありません。楽しくやる、これがこの大会のモットーです。初心者も女性も若者も大歓迎で、是非お気軽にご参加下さい。来年の開催は6月に予定をし、開催日が決まり次第ホームページに載せます。また連絡希望の方は事務局にメール又は電話でお知らせ頂ければご案内致します。奮ってご参加下さい。



卒業生を送る会

3月25日午前中に行われた卒業式に引き続き「百年記念会館」で経済学部・研究科の卒業生を送る会が開催されました。この会は同窓会入会式も兼ねています。席上、上野会長より200余名の卒業生に対し力強い饒の言葉が贈られ、その後のパーティーでは社会に飛び立つ若者らの安堵感と開放感にあふれた歓声が会場いっぱいに響いていました。

毎年優秀卒論に対して授与される同窓会長賞には田村昂平さんのブランド価値評価に関する論文が選ばれました(本会報に論文の要約と喜びの感想が寄せられています)。



受賞の喜びと 感謝の思い



田村 昂平

この度は、平成26年度北海道大学経済学部特選論文同窓会長賞をいただき、誠にありがとうございました。このような名誉ある賞をいただいたことを誇りに思います。また、卒業論文の執筆にあたり、構想の段階から指導いただいた久保澤司先生をはじめ、様々なアイデアをくれたゼミの仲間や、添削までしてくれた友人には本当にお世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

ブランド起因率にみる経済産業省ブランド価値評価モデルの課題と改善策」というタイトルを付けた私の卒業論文ですが、内容を簡単に説明すると、既に発表されていたブランド価値評価モデル」には課題があり、それらを改善することで、より簡単にブランドの価値を比較可能な形で評価できるということを述べました。

そもそもこのような卒業論文を書くことになったきっかけは、ゼミで企業価値について学んだことでした。企業の価値は単に財務諸表に記載されているもので表されるのではなく、将来の収益を見込んだ金額で表されることを学び、その計算にはインフレ率や資本と負債の比率など、様々な要素が用いられることを知りました。このように企業価値を学んだ中で、「無形資産」というものがあることもまた学びました。これまで、資産ということと建物や土地などの有形資産を考えていましたが、それだけではなく、ブランドやノウハウ

といった物体を伴わない資産があるということ

とを初めて知り、印象に残りました。このときゼミで使用した本、企業価値を学ぶ教科書となったのは「ゼミナール企業価値評価」(伊藤邦雄、2007、日本経済新聞出版社)であり、この教科書では無形資産の価値を独立して評価せず、有形資産と無形資産の価値の合計から有形資産の価値を除いて、残ったものが無形資産の価値であるという考え方を採用していました。これが私の中に残っており、無形資産それ自体をゼロから評価できないかと思っており、卒業論文の構想段階で、無形資産の価値評価を行いたいと考えていました。こういった発想は大抵先駆者があるもので、調べると2002年に経済産業省が「ブランド価値評価研究会報告書」を発表していることが分かりました。これは無形資産の中でもブランドに着目したもので、多くの研究者が参加し、作り上げたモデルですが、現在有益な指標として活用されている様子はありませんでした。

私は、無形資産の評価をしたいと思っていたところに見つけたモデルだったので、これを改善することで有益なものにできないかと考えました。モデルの目的の1つは比較可能性を持たせて、財務諸表にブランド価値という項目を記載させることでした。しかし、ブランド価値を算出するためには数多くの情報が必要でした。例えば分析対象となる企業の売上高や売上原価、海外での売上高や本業以外の売上高などです。加えて、ブランド価値とは同じ業界の他社と相対的に計られるものだと考えていました。そのために分析対象の企業が何業界であり、その業界には他どのような企業が属しているのか、それらの企業の売上高や売上原価はどうなっているのかなど、様々な情報が必要でした。私の卒業論文においても、課題を明らかにするために改善前の方法で一度ブランド価値を算出しましたが、非常に手間のかかる作業でした。

私が挙げた課題はいくつかありましたが、ブランド起因率と先述の業界分類が大きな点

でした。ブランド価値は将来見込まれる売上高の合計のうちブランドがもたらす金額を求めることで算出されるというモデルであり、将来の売上高の合計を求めた後に乗るものがブランド起因率です。従来のモデルでは営業費用に占める広告宣伝費の割合をブランド起因率としていました。しかし、広告宣伝費がブランドに直結しているのかわからず、ブランドが成熟してくると広告宣伝費をかけるにつれてブランド価値を維持できる可能性もあり、いくつかの疑問が生れました。また、広告宣伝費が財務諸表に載っていない企業も数多くありました。そこで、広告宣伝費を用いずに、どの企業も財務諸表に記載がある営業費用や売上高を利用してブランド起因率を設定したものを固定値で置き換え、実証したところブランド価値が過大になりましたが、評価する期間を短期間に限定することでブランド価値を抑え、またそのようにしても大きな問題はなかったため、業界分類は不要となりました。

私の卒業論文は元となるモデルを改善していく過程と結果を示したものとなったので、ページの半分はグラフや表になりましたが、それだけに誤行錯誤を示すものになったのではないかと思います。約60ページに及び卒業論文は執筆の過程で、様々な人の添削を通して変化しました。初めは全く違う構成で、特に2章と3章は大きな変更をしました。文と文を繋ぐ作業で非常に苦労しましたが、結果としてこのような賞をいただけたことを嬉しく思います。これからは社会人として生活していく中で、予定通りにはいかないこと、考えていたことは全く異なる意見を言われることもあると思いますが、様々な意見を取り入れることで良いものを生み出すことができるという経験は大切にしたいです。

最後になりますが、改めて北大経済学部で共に過ごした友人やお世話になった先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

就職状況

今年も好調な就職状況

今年の経済学部と同大学院卒業生の就職率は93・5%と昨年に続き好調な結果となりました。進学者を除く就職希望者2011名のうち188名（女性52名）がこの春社会に向けて学卒を後にしました。

今年の特徴は、「企業の採用枠が拡大して希望通りの企業や団体に就職するケースが目立ったこと」と道外企業の割合が増えたこと（教務課）。業種別では、昨年に続き金融・保険が41人と公務員の26人を抜いてトップとなりました。

社会人一年生となった彼らの活躍を願わずにはおれません。どうかビジネスの現場などで一緒に働く機会がありましたら温かいお声掛けを宜しくお願いします。

※（ ）は就職人数
札幌市役所（9）、北洋銀行（5）、三井住友信託銀行（5）、ニトリ（4）、キャノン（3）、日立製作所（3）、北海道電力（3）、日本郵便（3）、北海道銀行（3）、三井住友銀行（3）、三菱東京UFJ銀行（3）、有限責任監査法人トーマツ（3）、デンソー（2）、双日（2）、新日鐵住金（2）、日本政策金融公庫（2）、農林中央金庫（2）、損害保険ジャパン日本興亜（2）、三井不動産リアルティ（2）、北海道財務局（2）、北海道庁（2）、りそな銀行（2）、東急フィナンシャル・アンド・アカウンティング（2）、熊谷組、JFEエンジニアリング（2）、東

恩師の異動 ほか

平成27年3月31日

特任教授 吉田 文和
愛知学院大学経済学部教授へ

特任教授 宮本 謙介
亜細亜大学経営学部教授へ

准教授 大山 睦
一橋大学大学院商学研究科准教授へ

助教 中村 将人
梅村学園中京大学総合政策学部講師へ

助教 黒阪 健吾
北海道武蔵女子短期大学准教授へ

洋エンジニアリング、長谷工コーポレーション、江崎グリコ、ニチレイ、サントリー食品インターナショナル、日本マクドナルド、石屋商事、日本たばこ産業、鎌倉新書、カネボウ化粧品、JX日鉱日石エネルギー、塩野義製薬、ノボルデイスクフアイマ、三菱化学、日本高周波銅業、日本発条、三菱重工業、三菱マテリア、日立オートモティブシステムズ、村田製作所、住友電気工業、東芝、NEC、パイオニア、パナソニックシステムネットワークス、富士通、富士フイルム、三菱電気、NOK、レノボ、大陽日酸、電源開発、北陸電力、NTTコミュニケーションズ、共同通信、KDDI、昭和システムエンジニアリング、ソフトバンク、TIS、東日本電信電話、富士通、日鉄日立システムエンジニアリング、北海道新聞、北海道文化放送、楽天、レジェンドアプリケーショングループ、インサイトテクノロジ、CSK、Bloomberg J.P.、メソバース、三菱倉庫、イシグロ、伊藤忠商事、シュレン国分、豊田通商、

ヴィノスやまぎき、大丸藤井、あおぞら銀行、群馬銀行、札幌信用金庫、新生銀行、第四銀行、日本銀行、野村証券、八十二銀行、百五銀行、みずほ銀行、みずほフィナンシャルグループ、ゆうちょ銀行、あいおいニッセイ同和損害保険、かんぽ生命、日本生命保険、エスパシオコンサルタント、独立行政法人都市再生機構、日本土地建物、池協会計事務所、インテリジェンス、フォーカスシステムズ、税理士法人平成会計社、税理士法人総合経営サービス、大和総研、日本アイ・ビー・エム、日本ユニシス、ひろせ税理士法人、アクティオ、野村総合研究所、ホープス、ペイロール、JTB、HIS、北海道大学、学校法人吉田学園、進学会、JPHホールディングス、長岡三古老人福祉会、日本年金機構、セコム、ダイナム、佛光山報國寺、札幌国税局、札幌地方裁判所、月形学園、青森県庁、泉大津市役所、江別市役所、小樽市役所、帯広市役所、観音寺市役所、仙台市役所、富山県庁、広島市役所

平成26年度

経済学部同窓会、懇親会

昨年9月27日（土）に北大構内の諸施設で記念講演会、同窓会総会および懇親会が開催されました。

4学部合同で行われた記念講演会には興味を引くテーマと有名講師ということで、OB、OG以外にも多くの市民が参加し会場は満杯となりました。その後は各学部に分かれ同窓会を開き、午後5時半より再び4学部合同で中央食堂に集まり「懇親会」が開かれました。

大学側から来賓のご挨拶をいただいたあとは、生協渾身の料理を囲んでいくつもの歓談の輪ができて、遠方より来道されたOBも久方ぶりに旧交を温められておられました。

最後は恒例の「都ぞ弥生」を大合唱。会場は学生時代さながらの熱気に包まれ、参加者は再会を約して帰路につきました。

今年の総会も同様の形式で行います（19ページにご案内させていただきます）！



経済学部東京同窓会のご報告

経済学部東京同窓会は毎年秋頃に開催しており、昨年は11月14日（金）に銀座東武ホテルにて開催されました。

2年毎に経済学部単独での開催と法学部と合同開催を交互に行なっており、昨年は法学部との合同開催で、経済学部から27名、法学部と合わせて約60名のOBにご出席頂きました。

毎回、懇親会に先立って第一線で活躍されているOBや北大からお越しいただいた学部長に講演会をお願いしており、今回は文学部ご出身の芦原伸様に「被災鉄道へ復興への道」と題して約1時間講演いただきました。

講演後の懇親会では来賓の吉見経済学部長と小林法学部同窓会副会長にご挨拶頂いた後、乾杯は今回出席者の最年長玉井先輩（昭和28年卒）のご発声により、OBそれぞれの近況報告や新たな交流もあちらこちらで見られて、お開きの時間をお伝えするのがはばかれるほどの盛況でした。

懇親会のお開きは北大OBが集まった時には欠かせない恒例の「都ぞ弥生」で締めとなりました。同窓会では世代の垣根も業種も超えた交流ができて、出席すると楽しくもあり、刺激も受けることが出来ますので、今後も多くのOBに出席頂きたいと思えます。

今年度は10月24日（土）午後1時30分から開催する予定です。関東にいらっしゃるお知り合いのOBがいらっしゃいましたら、事務局藤井（E-mail: juitf@frontier.hokudai.ac.jp）にお知らせいただければ幸いです。

また、全学部対象の「北大東京同窓会」では5月にジーンズカンパニー（23日、江戸川河川敷）を大好評のうちにを行いました。本年11月下旬には「クリスマス会」が催される予定です。このほかにもホームページに様々なお知らせや情報が掲載されております。

最後に、今回の同窓会では遠く札幌から吉見先生にご出席頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

東京同窓会事務局 藤井孝先（平成7年卒）



@Frontier

北大卒業生向けインターネットサービス

@Frontierは、北大卒業生が利用できる、生涯にわたって|無|料|のインターネットサービスです。



hokudai.ac.jpドメインのメールアドレスは、北大卒業生の証。PC・ケータイ・スマートフォンから、メールをはじめとする各種サービスが利用可能です。

北大を卒業しても、@Frontierで他の卒業生や北大つながりましょう！

【サービス内容】

- 1 利用資格は北大卒業生。利用料は無料。北大の卒業生であればどなたでも無料でご利用できます。
- 2 生涯にわたりメールサービスが利用可能！生涯お使いいただけるメールアドレスを付与します。
- 3 オンライン上で会員検索ができる！利用登録された卒業生に連絡を取ることができます。
- 4 「私書箱」機能も利用可能！メールアドレスを公開せずに会員同士のやりとりが可能です。

【アクセス方法】

- 1 @FrontierのWebサイトにアクセス www.frontier.hokudai.ac.jp/
- 2 申請画面で必要事項を登録してください
- 3 北大で卒業確認し、アカウント情報をお届け



登録申請はこちら

<http://www.frontier.hokudai.ac.jp/>
[お問い合わせ]
北海道大学総務企画部広報課 tel.011-706-2012
info@frontier.hokudai.ac.jp



学生支援の「北海道大学カード」

北大人の証明

北海道大学連合同窓会が発行する「北大カード」は、北大人としての証です。（北大同窓生、在学生父母及び教職員限定）

特典

附属図書館の入館証
植物園の無料入園証
北大カード協力店の割引・優待
北大出版会書籍割引
希望者へ結婚式への祝電サービス（総長・連合同窓会長連名による）
カード会社からの各種サービス など
（詳細は申込書等をご覧ください。）

カードの利用額に応じて提携手数料がカード会社から還元されます。これを「学生支援資金」として奨学金などの学生支援に活用します。

一般カードは年会費永久無料!!《ゴールドカードを除く》

一般カード



ゴールドカード
年会費10,000円（税抜）

- 1 専用の申込書をご請求ください。専用申込書を送付いたします。
- 2 専用申込書に所定事項を記入・捺印いただき、ご投函ください。
- 3 カード会社の審査を経て、お申込から約1ヶ月後にカード会社から配達記録郵便にてご自宅までお送りいたします。

お申込について

申込書ご請求先

北海道大学連合同窓会事務局（北海道大学総務企画部広報課）
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
電話：011-706-2012
E-mail: kouhou2@jimu.hokudai.ac.jp

※UCカードのホームページからも、申込書を請求できます。（ホームページ下部の「資料請求」からお進み下さい。）
（<http://www2.uccard.co.jp/join/college/hokudai.html>）

人物紹介

新渡戸カレッジという 壮大な試み



北大新渡戸カレッジ・フェロー
北村 倫夫
(昭和56年卒業)

■新渡戸カレッジ・フェローとは

北大には、学内に「新渡戸カレッジ」(2013年4月開設)なるものが存在するのをご存じであろうか。新渡戸カレッジとは、各学部での教育に加えて、グローバル社会で活躍するために必要なスキルとマインドを身につけるための特別教育プログラムのことであり、その目標は、高い精神性、異文化理解及びコミュニケーション能力を身につけたグローバル人材を育成することである。授業科目は、留学支援英語、国際交流科目、多文化交流科目、新渡戸学などから構成され、また「海外留学」が必須となっていることが大きな特徴である。カレッジでは、毎年200名程度の学生が英語力の試験結果などをとらえに選抜され、2015年4月現在、学生数は約600名に及んでいる。要するに、北大生の中から特に英語力の高い学生を選抜し、全人格的・能力的な面での「(真の)グローバル人材」の育成を目指すエリート教育プログラム、それが新渡戸カレッジなのである。カレッジのユニークな仕組みのひとつが、「フェロー制度」である。フェローは、北卒業生の中から選ばれ、学生の「よき理解者、助言者、教育者として、学生の自律的な成長を見守り・支える役割を担う」ことが期待されている。具体的には、フェローが持つ、企業、公務研究、ボランティアなどの活動で得た国際的な経験や知識を伝えるとともに、グローバルな舞台で活躍できる、またリーダーシップを発揮できるマインドとスキルを、講演、ディスカッション、対話などを通して学生に伝授している。現在、25名のフェローがおり、その中の一人が

私である。

■フェローとして私が実践してきたこと

私がフェローとして具体的に何をやっていくかについて、いくつかご紹介したい。①フェロー講演会では、「世界の中で生きていくためのマインド、スキル、そしてクリエイティブ・留学、就職、キャリア形成に必要なコア・コンピタンスへの経験的助言」という題目の話をした。②パネルディスカッション「グローバル化と日本人」では、パネラーとして「グローバル化に対応した日本人は、多重重人格者」とならざるを得ない!という主張をし、学生やフェローから賛否両論が出て大いに議論が湧いた。③グループミーティングでは、「日本をより良くするため、1兆円の予算を自由に使うことができる。どのように使うべきか提案されたい」という命題でのワークショップを開催し、学生に事業提案と実行プランを策定させた。大学ではあまり経験しない、政策思考トレーニングを意図したものである。④学生を前に、モデル・ディベート(複数フェロー参加)を「日本は外国人労働者を積極的に受け入れるべきか否か」の論議でおこなった。実際のディベートを見たことのない学生が多く、その後に実施の学生同士のディベートの参考になったと思う。



■グローバル人材は育っているか

さて、カレッジが目指すグローバル(リーダー)人材は、果たして育っているか。今のところ、私の目からみて、世界で活躍する職業や進路の明確なイメージをもって、グローバル人材を目指している学生は、残念ながら多いとはいえない。しかし、自分の学生時代を振り返っても、この時期では進路などほとんど見えておらず、ましてやグローバルな活躍など全く考えていなかったのだから、時代は変わったとはいえ、今の学生にいきなりグローバルリーダーを目指せと言っても、それはそれで酷ではないかと思う。だから、学生に対しては、リーダーに

なるなど気負わなくてもよい、ただし、どんな職業や進路を選択しても、世界で仕事をすることは多くある。その際に、あわてず、あせらず、コンプレックスを持たず、堂々と世界の人たちと、コミュニケーションできるための基本的な心がまえと素養を身につけることの重要性を説いている。

また、カレッジが力を入れている海外留学については、着実に学生の留学経験者数が増え、経験値は上昇している。ただし、短期留学が主流であり、1セメスター以上の長期留学を選択する学生は少ない。私は、経済学部在籍中の留学経験(米国マサチューセッツ州立大学)をもとに、学生には「多感な学生時代の長期留学は、何にも替えがたい人生の財産になるので、留年してでも行ったほうがよい」と助言している。しかし、今の学生は、留年に対する抵抗感、留学費用の問題、就職活動へのマイナスの懸念などを理由に、長期留学をためらう傾向が強いと感じる。長期留学にチャレンジする学生がもっと増えてほしいと思う。だから、留学の費用は親から借りて社会人になって返せばよい(カレッジより経済的支援も有り)、企業から見て留学による留年は採用の際にマイナスにはならないなどとも伝え、学生を鼓舞している。

■新渡戸カレッジの成長のために

新渡戸カレッジは、スタートしてまだ3年目である。カレッジ教職員もフェローも学生も、より良いカレッジづくりを目指して試行錯誤をしている段階であるが、最近ではようやく軌道にのってきた感がある。フェローに対して学生から「人生の先輩の体験談を聞くのは楽しいし、何より新しい価値観や経験を得ることができた」といった声も聞かれる。コメントをもらうことも多くなっている。北大の先輩として、多くの後輩たちが世界の舞台で活躍することを願ってやまない。そのために、微力ながらもフェローとして、壮大な試みである新渡戸カレッジの成長を支えていきたいと考えている。

(現職)
株式会社野村総合研究所 社会システムコンサルティング部担当部長(上席研究員)
北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 客員教授

北大の近況

北大ホームカミングデー 2014の開催

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」が行われました。

会場となったクラーク会館講堂が多くの同窓生や関係者で埋まるなか、北大交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」「永遠の幸」の演奏で式典は幕を開けました。

司会は経済学部の卒業生である北海道放送株式会社船越ゆかりさんが務め、最初に、山口佳三総長が「進化する北大」と題して大学の近況を報告し、「同窓生の皆様には強力な応援団になっていただきたい」とのメッセージを伝えました。次に、石山 喬北大連合同窓会会長が歓迎の挨拶として、「新渡戸カレッジ



歓迎の挨拶を述べる石山会長



大学の近況を報告する山口総長

ジ」を例にあげながら、連合同窓会の役割や意義について話されました。

続いて、

キャスターとしても活躍され、北大大学院農学研究大学院客員教授並びに慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任教授である林美香子氏が「農業・農村で幸せになるうよ」と題して講演を行いました。「農都共生」(農村と都市の共生)の大切さを伝えました。



講演する林氏



「都ぞ弥生」斉唱で参加者が一体となった会場

迎のステージでは、北大合唱団・合唱団OB会が札幌農学校校歌「永遠の幸」をはじめ4曲を披露し、会場に重厚な歌声を響かせました。

ステージの締めくくりは、「都ぞ弥生」の斉唱です。斉唱時には合唱団団長の呼びかけで役員等もステージに上がり、客席の方々は席を立ち隣の方と肩を組み、会場が一体となりフィナーレを迎えました。

また、式典開始前には、総合博物館が制作した映像を上映し、色彩豊かなキャンパスを紹介しました。

平成26年度 学位記授与式の挙行

平成26年度学士学位記授与式を3月25日に、第1体育館において執り行いました。学位記授与式は、来賓、役員、学部長等の列席の下、北大交響楽団による「エルムの鐘」の演奏の後開始され、水産学部を除く11学部の卒業生2,281名を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。

山口佳三総長は卒業生への告示の中で、「時代に流されな



学位記を受ける総代

「自ら学ぶことの大切さを体得した人は、これからの未来を自力で切り拓いていける」と、「学び続けることは、絶えざる自己革新を求めることでもあり、フロンティア精神をもってこれからの人生を切り拓いてほしい」とことを述べました。2つ目は、「これからの人生を、常に社会と向き合って歩む」とことであり、「これから、自分を育んでくれた社会にどう関わられるのか、どんな貢献ができるのかを問い続けてほしい」とことを述べました。

最後に、「夢と勇氣と大志を持って、新しい船出をされることを祈念しております」との言葉が贈られました。

「フード&メディカルイノベーション」が 稼働を開始

4月1日、北キャンパスに「フード&メディカルイノベーション(FMI)国際拠点」がオープンしました。

FMI国際拠点は、ひとつ屋根の下をコンセプトに、産学官地域と市民が多様な形で集い、札幌農学校時代から続いていた「食」にまつわる研究、そして、医療分野の先進的な研究の融合を図るべく協働し、革新的な研究開発を展開することを目指しています。施設には、共同研究のための実験室や共通機器室、市民の皆様にもご利用いただける多目的ホール、オープンカフェ、ディスカッションプラザなどが設けられています。本拠点から、「食」と「健康」をコンセプトとしたイノベーションを日本、及び世界へ発信していきます。



多目的ホール



フード&メディカルイノベーション国際拠点

社長紹介

家業100年と私の先祖調査



株式会社かね彦代表取締役社長

中島 代博

(平成21年院卒)

北大生になった、という実感はその合格通知よりも恵迪寮の入寮案内が届いたときにわきました。結局、五年も掛けて修士課程を終えた私ですが、在学中の思い出と言え、もちろん、田中慎一先生（北大名誉教授）のゼミの呑み会（北24条の焼鳥居酒屋「なると」、平成26年8月閉店）です。また、会社帰りや日曜に閉館まで詰めた今は無きあの旧本館書庫（平成23、24年改修）での資料収集の日々が今もなお懐かしいです。

私は、現在、曾祖父彦平が札幌で創業した蒲鉾屋かね彦の六代目として経営に携わっております。思い起こせば十一年前、北海道大学経済学研究科修士課程に社会人として入学し、まさにその二ヶ月後に父が急死しました。テナヤワナヤになる中で授業に臨み、午後から出社という日々が2年間続きました。後々、非常に勉強になった時期でもありました。

家業である蒲鉾屋かね彦は前身の鮮魚商（中一・中島仁左衛門商店）として高祖父父仁左衛門が明治33年にスタートし、曾祖父彦平の代からは、鮮魚商と兼業して蒲鉾

屋も始めました（かね彦・中島彦平商店と改称）。蒲鉾屋としては2018年に家業100周年となります。

調査を思い立つたきっかけ

ところで、皆さんもご経験されているかと思いますが、親の代から北海道に住んでいると、「ご先祖は、どちらから北海道に來られましたか」と聞かれる機会があるかと思ひます。私も「はい、石川県加賀市です。その市域にある江沼郡の弓波という村から明治28年に渡道したようです」と答えていたのですが、実際に現在の弓波町には三年前まで行ったことはなく、小学生の時に興味本位で地図帳で確認したり、近年ではインターネットのグーグルアースやグーグルストリートで検索して何となく判ったつもりでおりました。そういう「判ったつもり」である先祖についての認識は、在学中の北大本館図書館で判る範囲の限定的な新資料の発掘のみでしたので、書庫に籠って当該資料を探し、満足する論文を執筆した自分として、先祖については日々納得のしない悶々としたものになっていきました。

宅位置判明。この発見の前に弓波町の方から類似の絵地図が郵送された。および明治19年編纂の『印鑑簿』（高祖父父名記載で『明治十九年式戸籍』の役人筆跡と一致）があると、図書館員から連絡がありました。『宗門人別帳』は残念ながら見当たらないとのことでした。結局、行政の力では限界があり、こうなれば直接、地元、弓波町の方や郷土史家のご協力をいただくために、加賀市所管の地区会館に突然問い合わせをしたところ、驚くべき農村ネットワークによって、弓波村時代の絵地図（前掲図）や明治20年代の各戸主の名前入りの複写地図（高祖父父名記載）をいただき渡道直前の居宅場所がピンポイントで判明しました。また明治21年編纂の『墓籍簿』の複写も送られてきました。これにより私から六代前の天保期以後の先祖名と今まで不明だった3名の命日、さらには高祖父の祖母の名前が判明し、弓波村に明治期に一時的ではなく藩政期から長くこの土地に住んでいたことがわかりました。そして遂に地元の方々とアポイントメントを取り、昨年6月、いまは無縁墓地（平成8年に整理編入）となった当家のお墓に東本願寺大谷派のお坊さんをお願いいただきました。地元の皆さんとともに参りいただきました。当家のこの120年振りの先祖供養は、地元の北國新聞でも記事として掲載され、さらにこれ



先祖調査の醍醐味

を読んだ弓波町の方から感激のお手紙が届きました。このことにも触発され、この調査から半年後、さらに弓波に当家が生活していた当時にお嫁さんとして來られた方々のご実家、ご子孫がおられないかと、除籍謄本のザックリとした住所を元に、別の地区会館に問い合わせたところ、無縁墓となりつつあった墓の発見や四十年前に連絡が途絶えていた縁者、そして高祖母ハツのお世話をしていただいた方の曾孫の方から色々な情報がありました。今年7月に会う約束です。また、一連の調査の中、たまたま読んだ本の著者で、江沼郡の移民史について研究されている郷土史家の池端大二先生と懇意になり、大変有益なご教示を賜りました（当家と同じ明治28、29年に近隣の村から集団で北海道開拓のために渡道したという事実）。

北海道に渡った様々な理由、先祖の居宅の場所と旧弓波村の様子、お墓の場所、取得した除籍謄本記載以前の江戸時代の先祖名や死没日、交流の途絶えた江戸時代生まれのお嫁さんの実家や縁者の方々の近況など、私が余計にですが、知リたかったことまでもが堰を切ったように点と点が線になり面となって、明確になっていくことが何よりも嬉しかったのです。自分自身にリアルに直結するという点から、推理小説、フィクションがノンフィクションに変化して目の前に現出し一つ一つ解決するという、その瞬間が何よりも先祖調査の醍醐味といえます。

先祖のことがすべて判ったわけではありませんが、先祖調査の根本となる除籍謄本の開示期間が法的に延長された（平成21年6月に80年から150年に改正されたが、80年間だった時に廃棄された謄本も

それでも、在学中のある年の夏に院生のグループで旧本館図書館にあった北方資料室を訪問した際に何気に書棚にあった古い北大教員録の原簿複写を見つけ、パラパラと捲っていると祖母たちから聞いていた曾祖父彦平の末弟、富太郎（留吉）の在職履歴簿が偶然あったのです。これには驚き、すぐに祖母の病室に知らせに行った記憶があります。その後の調査で富太郎は大正1112年の二年間だけ遠友夜学校の教員として北大予科助教の仕事と兼務していたことが明らかになりました（最近、北大文書館所蔵の『遠友夜学校写真帖』によって、当家にある富太郎と言われてきた写真が別人であることが判明）。また北大には当時の札幌商業会議所や商工人名録など様々な地元の雑誌類がありまして、鮮魚商時代や蒲鉾屋かね彦について記載された貴重な資料を入手することもできました。私の修士論文のテーマは明治、大正期の邦人娼婦経済を中心とした『近代シンガポールにおける日本人進出の社会経済史的探究』でしたが、こうして中島家の「先祖」についても時間の取れる限り平行して調査していたわけです。しかしながら、札幌に居ながらにしての調査には限界がありました。渡道（明治28年）以前に住んでいた弓波、という地名が強く気になってきたわけです。

そこで、昭和52年に祖父富二雄の相続のために父が当時取得できた一番古い除籍謄本（明治十九年式戸籍）。明治5年の『壬申戸籍』は非公開だが、地域を取り纏めた名主や戸長のご子孫が、現代で言う国勢調査ともいふべき江戸期から維新期の戸籍謄本である『宗門人別帳』（家族構成、年齢、住所、職業、菩提寺、氏神などを記載。寺を経由し名主や戸長から藩庁などの役所に提出）とともに現存している事例がある）があったので、それらを元に先祖の

一覧年表を作り、整理して居住所の変遷を辿っていきました。何か欠落していたものはないかと思ひ加賀市に35年ぶりに除籍謄本を再請求しましたが、当家の除籍謄本はすべて廃棄したため開示できない、との回答でした。

現地の皆さんの協力で次々と解明

それならばと思ひ、『旧土地台帳』（明治20年前後から昭和20年代ぐらいまでの土地所有者（多くは世帯主。地主の場合は除籍謄本が取得不可であった場合に戸主名のみ知り得ることが可能）の変遷と土地の規模や種類などが記載されている旧税務署所管の簿冊で現在は地域の法務局が管理）の取得を試みました。これは札幌市では有効でしたが、弓波町を管轄する石川県小松市では弓波地区の明治期のものがない、という回答でした。また石川県庁、加賀市ともにインターネットの検索では出てこない明治21年編纂の『地引絵図』（除籍謄本の居



心のリゾート
海の別邸 ふる川
白老郡白老町虎杖浜289-3
(0144-87-6111)
<http://www.kokorono-resort.com>
(ナトリウム塩化物泉 pH 8.2)

ぬくぬくの宿
ふる川
札幌市南区定山溪温泉
(011-598-2345)
<http://www.yado-furu.com>
(ナトリウム塩化物泉 pH 6.7)

運河の宿
ふる川
小樽市色内1丁目2番地
(0134-29-2345)
<http://www.otaru-furukawa.com>
(ナトリウム塩化物泉 pH 7.5)

代表取締役 古川 善雄 (経済学部 37年卒業)

北大経済学部

同窓生の近況



最終勤務地を札幌で過ごさせて

菅 埜 誠（昭和52年卒業）

故郷秋田市から北大に進学し4年過ごす間、道都として発展する札幌の街とおいしいビールに惹かれ、1977年サッポロビールに入社しました。

初任地に札幌支社を希望したものの、縁もゆかりもない大阪支社に勤務となり、念願かなっての札幌勤務は入社から10年経った1986年でありました。

札幌支社時代は折からのバブル期で、マーケティングを担当中に数多くのイベントを手掛けたことが思い出されます。中でも雪祭りや大通ビヤガーデンが最大のイベント。試行錯誤しながら規模の拡大や内容の充実に努めたことで、現在の札幌冬と夏の風物詩となっていることに、微力ながら貢献できたと思っています。

その後は首都圏や東北他の勤務を経て、2010年から再度札幌での勤務に、そしてこの地で定年を迎えることとなりました。

札幌の魅力は、道都としての求心力と北海道の発展を支えてきた歴史と文化があること、サッポロビールの故郷だけに高シニアであること、そして多くの大企

業の支店が集まっているだけにその交流が華やかであると感じております。交流の点では、道内には50を超す多様なビール会があり、活発にビールを愛飲して頂いております。全国でもこれほど盛んな地域はなく、まさに北海道ならではのサッポロビールファンクラブといえましょう。

我が国のビール会は、明治時代に北大の先生方がドイツを訪れた際に、各地で開催されているビール会を見聞し、札幌でも同様の会を開こうと、1908年に第1回サッポロビール会を開催したのを嚆矢としております。以来100年余に亘り、札幌をビールの街にならしめてきたと思っております。

私のビール原点は、サッポロビール園と狸小路ライオンでの経験にさかのぼります。

秋田北盟寮で過ごした学生時代、寮の先輩からビール園で馳走になったジンギスカンと生ビール。食べ飲み放題は初めてで、前後不覚になるまで堪能した感動は忘れえぬ体験でした。

初めてのビヤホールは、大学3年の時

1年分の単位による余裕をもって、2年間自身の研鑽に努めるとしても、大学院に進みたい学生にとっては、とても有難い制度です。更に、北大経済学部の講義では、経済学、経営学、会計学の広くに渡って、その学問の入り口に触れる機会を学生に与えています。他にも、学部ゼミ、サークル活動、留学制度、就職のための案内、大学院進学への案内、アカウンティングスクールへの道など、北大の緑のキャンパスと北大経済学部の環境は、そこで学ぶ学生に様々な選択肢を示してくれます。



日本国債の信用力を考える

～異次元の金融緩和の行きつく先は～

水谷 伸政（平成13年卒業）

経済学部の同窓会報へ寄稿という貴重な機会を得たわけだが、よく考えてみると、もう10数年、ともに経済学の教科書を読み通した記憶がない。本稿は、そんな輩による「妄想」だと笑い飛ばしていただけると幸甚である。

今回の「妄想」のテーマは日本国債だ。一般的に、財務省の影響を受けている識者は、日本国債と金利上昇に関して、このような解説をすることが多い。

「国債の金利が上昇しても、国債は様々な償還期限で発行されており、政府の利払費は直ぐには大きく上昇しない。」これは、政府の借入額そのものは大きい、その利払いは長期の固定金利と比べているので大丈夫、という主張なのだ。確かに、日本国債は償還まで40年、30年といった超長期のもの

だったと記憶しております。貧乏学生にビヤホールの敷居は高く、なかなか行く機会に恵まれておりませんでした。

当時私は創設したばかりのアメフト部に所属し、中々試合に勝つことができない状態でありましたが、強豪相手に勝つことで祝杯をあげることに。ならば一度は行きたかったライオンビヤホールへと繰り出し、生ビールの美味さに心を奪われたことを思い出します。

サッポロビール園は来年50年、狸小路ライオンは昨年100年を迎え、全国的にも有名な店として存在しております。両店とも北海道、札幌と共に成長して参りました。特に札幌オリンピック以降には街の発展に合わせビールと食、文化面で貢献すると共に、多くの人達に様々な思い出を与えてきたと思っております。

2010年に、サッポロファクトリーの経営責任者として戻ってきました。ご



早期履修制度と大学院

～北大で「学ぶ」こと～

吉見 明希

北海道大学大学院経済学研究科 修士1年

北大経済学部で学んだ4年間は、社会を見つめる眼鏡としての学問に出会った大切な時間でした。私は学部3年次に進んだ時点で、すでに研究職への道に惹かれていました。本来就職活動に精を出すべき時期に、大学院に進み、もっと学問に触れたいという選択が頭にありました。ところが、会計学を学ぶゼミにいたので会計学が中心かなあと思いつつ、具体的に何を研究したいのかは漠然としていました。そこで、友達と語らい、サークル

で絵を描き、バイトで算数を教えながら、とりあえずは自身の研究のつかみになる要素を探して、ただただ様々な講義に耳を傾けていました。つまり、就職活動に関しては、ほぼ何もしていなかったわけですが、もしかすると同期には、将来への危機感がないように思われていたかもしれません。

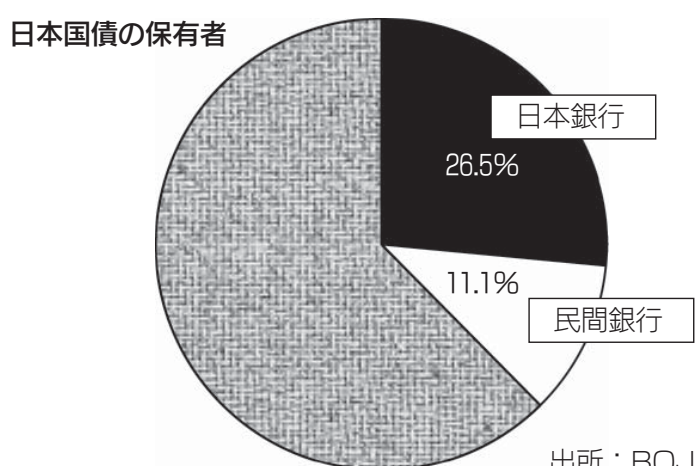
そのような私に対し、経済学部の掲示板に案内が載せられた『大学院早期履修制度』の文字は、魅力そのものでした。

私は、今は大学院で地道に研究に励む毎日ですが、確信をもっているのは、今こそが自身で選択した道の上であるということです。それは、北大経済学部の充実した環境の中で、様々な機会に触れ、興味をもち、広い選択肢から道を選び取る権利が与えられたからに他なりません。大学院経済学研究科と同じ建物で学ぶ、北大経済学部の後輩たちが選ぶ道も、自身で納得し充実するものであるように、応援したいと思えます。私も選び取った道の上で、引き続き精進していく所存です。

ない。長期借入をしつかりと確保できるということは信用力が高い証であり、短期借入が増加していくという状況は好ましくない。そのような要注意な企業が要求される金利は、リスクを反映して高くなる。つまり、短期での調達を繰り返すという意味で資金繰りが苦しくなっていく上に、その利払いの負担が増すという悪循環に入ってしまう。

では、これを踏まえて、日本国債を考えてみよう。現在、日本銀行は「異次元の金融緩和」を敢行しており、大量の日本国債を購入している。フローとしては、政府が日本国債を発行し、それを民間の金融機関が購入。この民間の金融機関が保有する日本国債を日本銀行が準備預金と交換する格好だ。

一般的に、日本国債の信用力を考えるとき、日本国債の残高を念頭において議論がなされる。ただ、異次元の金融



緩和のもと、日本銀行は現段階で日本国債の約25%も保有している。メディアなどでは、あまり注目されていないが、いわゆる民間の国内銀行よりも、はるかに大きい保有割合である（図表ご参照）。そして、今後、追加の金融緩和も想定されるが、仮に現状のままとしても、2016年には40%まで保有割合は膨らむ計算になる。

このような異様な状況を踏まえると、日本国債の信用力の検証においては、政府単独のバランスシートだけではなく、日本銀行のバランスシートも合算して分析するという視点が重要になってくる。日本国債自体は確かに長期化の努力がなされているが、異次元の金融緩和のもと、日本銀行が日本国債を購入する見合いは、日銀当座預金という超短期債務なのである。すなわち、政府+日本銀行の「合算バランスシート」のもとでは、「短期借入/長期借入」のレシオが急激に悪化しているのだ。

追加の金融緩和の有無や、日本国債の発行年限の多様化などの不確定要素を保守的に織り込んだとしても、2017年（2018年には、政府+日本銀行の

「合算バランスシート」における短期借入は、日本のGDPの規模になるだろう。バランスシート上で、短期借入が多い場合には金利上昇のダメージを直ちに受けることになる。異次元の金融緩和は一定の資産効果と輸出企業の業績回復というメリットがあったかもしれないが、それは「合算バランスシート」の脆弱化という劇薬と引き換えだったのである。GDP規模の借入を短期で安定的に繰り返すことができるだろうか。

（足元、日本銀行による物価目標は苦戦しているが）そう遠くないうちに原油価格の回復や、アメリカの利上げを要因とする円安などが、じわじわと日本の金利環境に影響してくるだろう。また、完全雇用に近いと考えられる労働市場の状況や、官製賃上げの波及なども看過できない要因だ。これらは全て、脆弱な「合算バランスシート」をさらに蝕んでいく。相場の世界では、歪みがほどよく熟成されたところに売り叩かれる。かつて、ジョージ・ソロスに打ち負かされたインランド銀行と、異次元の金融緩和を敢行する日本銀行を重ね合わせるの、果たして「妄想」だろうか。



『飛んでけ！車いす』の会のこと

太田 広三（昭和48年卒業）

定年を1年半残し約30年過ごした（途中5年弱のNY勤務含む）埼玉から妻と同じ出身地札幌に戻ったのは2009年夏。暫くは失業保険を受給しながらの職探しでしたが再就職は叶わず、次第に自

宅でゴロゴロ生活へ。すると妻が耐えられなくなり、生協で見つけたボランティア活動紹介冊子のコーディネータ募集記事を示し、「話を聞いて来たら?」。海外の協力団体と電子メールで連絡する仕事



私が初めて担当し飛んで行った車いす。札幌にお住まいの男性に、パンコック郊外に住む7歳の女の子へ届けて頂いた。お母様の笑顔が印象に残った。

況に応じた車いすを旅行者さんに持つて行って頂けるようコーディネートする、そして⑤会の活動を広める広報・イベント活動を企画・運営する等で構成され、本年3月末現在2455台の車いすが78カ国で生活する皆さんに届けられました。北大関係では法学部の学生さんにガーナへ、工学部職員さんのご家族旅行でインドネシアへ届けて頂いたほか、留学生さんに故郷の親族・友人へ車いすを届けて頂くコーディネートを担当しています。ただ、近年会の活動力が様々な要因で低下、一方でLCC利用の旅行者が増加しているためか「車いすを運びますよ!」と声をかけて下さる方も少なくなっており、運営が厳しい状況になっています。私が活動を始める少し前に一旦活動から離れていた吉田さんがこの6月から事務局長に復帰され、発足当初の多くの若者・学生が参加して活動する運営からシニアボランティア活用の運営へと新たな展開を模索していくようです。

さて、私がこの活動を続けてきたのは、最初に記した通り妻の希望で定期的に外出するため、週4回（冬は3回）事務所通いをしています。第二に、運動不足になりがちなか中、自転車で片道30分程の事務所を往復しお金をかけずに身体を動かす機会を確保することです（雨・雪の時は途中までバス、残り片道2km程を歩く）。少しずつですが体重も減っており、効果はあるようです。また、家族以外のひと話をする機会は精神的にも良いようです。そして一番重要なのは、

私生活最優先で会のお手伝いを認めて頂けていることです。認知症も進み要介護5の88歳になる実母を自宅近くのサービス付き高齢者住宅で看てもらっています。毎日様子は見に行っており、熱が出た・床に転がっている等の連絡があれば直ぐに駆けつける必要があります。93歳一人住まいの義母は未だ要支援で頑張っています。買物・通院等の付き添いは

欠かせません。現役時代は何かと妻に任せきりでしたが、自分たち自身も高齢者で互いの実母の介護も担う必要から、私生活最優先を認めて頂けるのは活動継続の重要な要素です。無給ボランティアでもあり（米国年金繰上げ受給中で有給の仕事は出来ないのですが）、もう暫く我儘を認めて頂きお手伝いを続けようと考えています。



山は富士、花は桜木、人は…?（定年旅行の練習? 始末記）

渡辺 敏昭（昭和52年卒業）

いやー最近の60代は若々しい人が多いよねえ、ホント全然60には見えないわうん。（59にしか見えないし。）うるさいよ。本当に59なんだからー。さつきは四捨五入で60ってゆったただけだから。この年になるとねー、いちいち端数まで言うのメンドクさいのよ。

社内でそんな雑談をしていたのも3年前のこと。いざ62歳ともなると肘・肩・腰・膝など節々が痛くなってきた、会社勤めも辛くなってきたんですわ。それに車通勤なんだから駐車場の除雪もやらないと困るし。いやそれよりも、冬が段々嫌いになってね。そんなこんなで、今年の9月に満63歳になるのを機に退職することにしたんですわ。

あと、やっぱり1年前に冠動脈の検査中に心停止状態になったことも関係あるわね。何とか蘇生したからこうして原稿書いてるけどね。まーその時思っただけど、仕事もいい加減にケリつけないと自分のために使う時間無くなるんでな

いかい? つてね。愚図愚図していると年金の掛金だけ払って、支給開始の前にご臨終でなことになるたりしてね。まーそんな人が増えたら年金財政の救世主だわね。安倍シンゾウ君から感謝状くるわ。「貴殿はタバコ税とビール税の高額納税者であり、しかも年金支給開始前にご逝去されるなど、国家財政再建に多大な貢献をされまして……」とか、褒められたりしてね。（そんなのいらねえつちゅーの。ところで、さつきのところ訂正あります。自分のための時間（↓誤）、家族のための時間（↓正）でした。本当です。）

まーそんな余計なことまで考えると、ちよっと定年旅行とやらの練習なんぞ始めてみてでもいいかなーと。（定年離婚防止作戦か?）とりあえず道内で一泊二日でもいいからとウチの相方に相談したところ、「五稜郭の桜を見てみたい。」と言う返事でした。オーケーボース、と衆議? 一決。ゴールデンウィーク直前の、平日に、有休取って、行ってきましたよ、

函館に。（鳥賊、カッコ内はボケかツツコミ）（鳥賊は変換ミス）

朝早めに札幌の自宅を出たので、途中の室蘭で高速を降りて地球岬に寄り道する余裕が出来ました。天気も良く眺望も最高で、確かに地球が（いや海が）まるーく見える（ような気がする）景色に目をまるーくして（元々丸いけど）しまいました。そして、正面に見えるのが、そう、駒ヶ岳です。ここから見るとやはり富士山（型）ですね。標高は1131メートルですが、頂上付近3割が噴火で吹き飛んだと考えると1700、1800メートルぐらいはあったように思えます。もし、頂上部分が残っていたら羊蹄山クラスの山容が海からいきなり聳え立っている様を見られたのに、あー本当にもったいないことしたわー。というこで我が探検隊は、「山は富士」を発見。（いつ探検隊になったん?）再び道央道に戻り「花は桜木」を探しに大沼公園に向かいました。（五稜郭公園で決定しますけどね）いやいや大沼公園は高速の終点だから、どうしても通るのよ。さて、五稜郭公園に着いたのは夕方にはまだ早い午後3時頃。とりあえず周辺を散策することにしました。桜祭りは週末ということでしたが、既にかかなりの混雑でした。いやいや人よりも桜ですよ。まだ三分咲きか五分咲きぐらいでしたが、種類も本数もすんごい。桜の芳香も何となく漂う。ウチの相方などは「この花、桜餅の匂いがする。」と感想文を発表。恥ずかしいから小声で言っつて。（確かに匂いはするけど、出来た順番逆でない?）

さて次に展望タワーから五稜郭を見てみたら、ここは桜の惑星か? と勘違い。あーー見事な景観。そして彼方に（いや意外と近くに）津軽海峡に下北半島・大



間の町。結構近い。（地球岬→駒ヶ岳と同じぐらい近い。約20km）こんな近くに原発造られたらエライこっちゃ。函館市長さんケツパってやーと、振り向いたところ何と「人は武士」発見。いや市長さんでなくて、もう一人の武士です。そう、この展望室には「箱館戦争と土方歳三」の資料が展示されていたのです。写真もありましたよ。何と洋装、「誠」の羽織姿でなく、髪もオールバック、かなりイイ男。どことなく日本ハムファイターズの金子誠に似ているし。（誠つながらでなく、本当に似ている、と思いません。）それに、何と言っても、負けると判っている戦いに死を覚悟して臨むところなど、敗者に優しい日本人の心の琴線に触れるものがあります。（ということでは良かったのはこまです。後がよろしくない。）

実は、その資料展示コーナーの近くの床面に縦30cm、横50cmぐらいのガラス板がはめ込まれていて、そこからは真下の



地面がよく見えるのです。(この展望室は地上90m)見たらもう駄目。それで、中央の壁にもたれて一周したのですが、そこを相方に指摘され、「さっきから何か変だと思っていたけど、土方の覚悟や

今、日本の経済の中では「グローバル化」の動きが加速しています。2014年の大手飲料メーカーの超大型買収などはその1つの例にあげられます。これから力のある企業がどんどん世界に出ていくことでしょう。そのことは是非、ここでは置いておくことにして、私が申し上げたいのは、そうしたグローバル化の流れとともに、一方で地方経済も大事にしていきたいということです。

故郷に戻って地域に貢献したいという想いを持つ同窓生は私以外にもたくさんいると思います。また、その想いを体現している方もいらっしゃるでしょう。その想いを大切に、いつの日か皆さんに第二の青春が訪れることになれば同窓生として嬉しい限りです。



北海道への想いと第二の青春

中西 克彦 (平成22年卒業)

私は2015年5月末に5年間勤めた某総合商社を退職し、北海道にゆかりのあるお菓子のスタートアップに転職しました。今回は、私が転職を決意したきっかけと、北海道に対する想いについてお話をさせていただきます。

私は北大を卒業後、総合商社に就職しました。私は生まれも育ちも北海道の生粋の道産子です。総合商社を志望したのは、北海道の地方都市、特に自分が生まれ育った小樽の街が寂れていく様子を見て、ある程度の規模感を持つて地方都市の経済に貢献できる仕事がしたいと考えたためです。最初に配属された部署は人事部でした。元々やりたかった部署ではありませんでした。3年は目の前の仕事を頑張ろう」と考え、人事の仕事を担当しました。すると、人事業務の重要性への気付きや尊敬できる上司との出会いなどから、徐々に人事の仕事にもやりがいが出てきて、3年が経ったあたりにも引き継ぎ人事の仕事をすることに迷いは無くなっていました。また、大企業の高い給与水準や整った職場環境にすっかり慣れ

行動を立派だとか武士の鑑だとか言っていたのと、今の態度と全然一致しないんだけど、おかしくない?」「いや、あの、その…」全く反論出来ず。あーあ、我は凡夫。

てしまい、入社前に持っていた想いを実行に移す上で、精神面のハードルは徐々に高くなっていきました。自分はどこか易きに流されていたのかもしれない。ところが、あるきっかけを境に私の中に眠っていた北海道への想いが蘇ってきました。そのきっかけは、2015年の年初の部会で、部長が紹介して下さったアメリカの詩人サムエル・ウルマンの詩の一節でした。

青春 (原題 YOUTH) 青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。

青春とは臆病さを退ける勇氣、安きにつく気持ちを振り捨てて冒険心を意味する。

ときには、二十歳の青年よりも六十歳の年に青春がある。

年を重ねただけでは人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。

(後略)

私は、この詩を聞いたときに思わず目頭が熱くなりました。自分の心はこの詩に詠われているような在り様をしているだろうか、社会人になる前に抱いていた

想いはどこに行ったのか、私は意図せず「自分は何が変わらなければならぬ」と感じたのを今もはっきりと覚えています。そんな矢先、まるでタイムマシンをかけたかのように、スタートアップを経営する高校の同級生から「人事をやってくれないか」というオファーをもらいました。「転職?」と、正直そのときは驚きましたが、今考えてみると同級生のオファーはそのときの私にとって将に「渡りに舟」でした。

同級生が経営する会社は札幌でお馴染みの老舗お菓子メーカーの関連会社で、札幌で作ったお菓子を再ブランディングして東京で販売しています。元々北海道のお菓子は本州でも人気がありますが、その会社のブランディング手法はとても優れていて、業績は非常に好調でした。また同級生の彼はその会社の今後について熱く語ってくれました。彼は会社規模を求め、日本を代表する製菓企業を作りたいと話しました。そして、広い販売網を受け皿として北海道の酪農家から農協を介さずに直で牛乳を仕入れるなど、生産者により多くの利益をもたらす仕組みを構築し、一次産業にも貢献したいという夢を持っていました。その夢を話す彼の表情はとてもイキイキとしていて、私は先の青春という詩を思い出しました。彼の心の在り様はまさに「青春」と思っただけです。オファーをもらってから1週間後、私は転職を決意しました。最初の仕事はこれまでと同じ人事の仕事ですが、会社が目指している方向は私の北海道に対する想いと同一方向性だと思ったからです。その後、前職の上司に自分の想いを伝え、最終的には5月末で退職し、6月から新天地で働き始めています。いくつかの縁が重なって得たこの第二の青春を、私は今精一杯生きていきたいと思っ



名譽教授懇談会が2014年10月3日(金)、北海道大学ファカルティハウス エンレイソウ「レストランエルム」で開催されました。

当日は「多忙な中、荒又重雄先生(1967年〜1996年在籍、北大経済学部卒、北海道労働文化協会会長)、内田和男先生(1975年〜2009年在籍、北海道武蔵女子短期大学学長)、濱田康行先生(1981年〜2010年在籍、道都大学学長)」に出席いただき、吉見研究科長、久保田副研究科長がオーガナイザーとして出席いたしました。

今回の懇談会は経済学研究科・経済学部の名譽教授の先生方にお声かけを

「名譽教授懇談会」開かれる

学術専門職 塚田 久美子



した初めての試みです。本研究科ではスペースの狭隘から名譽教授室の設置もままならず、名譽教授の先生方には本研究科をお訪ねいただく機会も多くはありません。その結果、現役の教員にとっても、研究科への「意見等」いただく機会を逸してあります。このため、今回そのような懇談の場を設けてはどうか、と考え開催にいたしました。

吉見研究科長から研究科の現状と、研究院構想について説明があり、名譽教授のみならずの意欲的な「意見」をいただき、懐かしいお話しと、現況を語られ、ランチを囲んでの短い時間ではございましたが、時間はあつといつ間に過ぎ、今後もこのような場を継続していきたいところで、閉会いたしました。

www.suda.co.jp/

TOTAL PRINTING
株式会社 須田 義版

札幌本社：〒063-8603
札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8
TEL.011-621-1000
FAX.011-621-1500

旭川支社・釧路支店・苫小牧支店・
関東支店・滝川営業所・
帯広営業所・北見営業所

AUDIX
ISO 9001:2008
札幌本社・印刷工場
認定取得

つたえる
つなぐ
もつとつたわる

わたしたちは各部門において
ひとりひとりが良いものをお届けしたいという
理念のもと仕事に取り組んでおります。
各部門が互いにコミュニケーションを取り
強くつながることで「アレ」や「コレ」を
もっと良いカタチにしてお届けしていきます。

出版
企画
デザイン
ウェブ制作
印刷
フロスメディア

同窓会サポート企業

SALAT 株式会社 サラト

■本社
兵庫県姫路市北条宮の町172
〒670-0948
Tel.079-284-1380

■東京支社
東京都台東区台東4-18-7 シモジンビル5F
〒110-0016
Tel.03-3832-6381

http://www.salat.co.jp

名 刺 広 告

ぬくもりの宿 ふる川
運河の宿 おたる ふる川
海の別邸 ふる川
代表取締役
古川 善雄
(経 昭和37年卒)
札幌市南区定山溪温泉西四丁目
TEL 011(598)2345

中川原・石黒税理士事務所
税理士
中川原 慶憲
(経 昭和41年卒)
札幌市中央区南一条東一丁目番十号
第3泊ビル
TEL 011(271)8462

山田建一税理士事務所
税理士
山田 建一
(経 昭和41年卒)
札幌市北区北十九条西五丁目一番十九号
TEL 011(746)5646

札幌監査法人
代表社員 公認会計士
高野 一夫
(経 昭和45年卒)
札幌市中央区南一条西十二丁目新永ビル
TEL 011(261)7512

山崎公認会計士事務所
公認会計士 税理士
山崎 駿
(法 昭和45年卒)
札幌市中央区南二条西五丁目
電話 011(211)1786

株式会社エーティーエルシステム
顧問
内藤 治生
(経 昭和46年卒)
山梨県甲府市相生一丁目4番23日本興亜ビル
電話 055(220)6456

弁護士
吉川 正也
(経 昭和46年卒)
札幌市中央区大通西十二丁目南大通ビル4階
TEL 011(261)6677

上野公認会計士事務所
公認会計士
上野 昌美
(経 昭和47年卒)
札幌市中央区南23条西9丁目25番
TEL 011(522)8170

毛塚 富雄
(経 昭和47年卒)

遠藤公認会計士事務所
公認会計士
遠藤 昭一
(経 昭和48年卒)
札幌市東区北二十二条東十八丁目三番二号
TEL 011(783)8123

株式会社ジャックス
相談役
杉本 直栄
(経 昭和48年卒)

弁護士
工藤 倫
(経 昭和50年卒)
札幌市中央区北五条西十二丁目一番地
ベルックス北五ビルB館二階
TEL 011(261)5275

田中利男税理士事務所
税理士 中小企業診断士
田中 利男
(経 昭和50年卒)
札幌市中央区南3条西6丁目3番2
南3条グランビル601
TEL 011(261)2061

株式会社ターフテック
代表取締役
宮本 裕司
(経 昭和50年卒)
北大島市大曲工業団地五丁目一番地二
TEL 011(377)4011

明治ロジテック株式会社
代表取締役会長
陣谷 義直
(経 昭和51年卒)
東京都文京区本郷3丁目22-15
住友不動産ビル
TEL 03(5684)6955

岩本敏美税理士事務所
(株)イモトマネジメントサービス
税理士・代表取締役
岩本 敏美
(経 昭和53年卒)
〒007-0834
札幌市東区北34条7丁目3番20号 イモトビル2階
TEL 011(214)1176

不動産鑑定士 宅地建物取引主任者
目黒 健兒
(経 昭和54年卒)
メクロオフィス株式会社 代表取締役
札幌市中央区南二条西八丁目十四番地
大友ビル四階(南二条通い南向き)
TEL 011(218)3566

監査法人ライイトハウス
代表社員 公認会計士
北村 好孝
(経 平成4年卒)
札幌市中央区南一条西十一丁目コンチネンタルビル
TEL 011(232)7102

監査法人ハイビスカス
代表社員 公認会計士
堀 俊介
(経 平成6年卒)
札幌市中央区南一条西9丁目井門札幌S109ビル
TEL 011(826)5265

吉田大吾税理士事務所
税理士
吉田 大吾
(経 平成11年卒)
札幌市中央区南一条西七丁目一番地
都市ビル7階
TEL 011(212)1412

中村泰道会計事務所
所長(公認会計士・税理士)
中村 泰道
(経 平成12年卒)
札幌市北七条西220東京建物札幌ビル2階
TEL 011(299)3624
E-mail: y-nakamura@nakamura-cpa.jp

牧田税理士事務所
税理士
牧田 秀崇
(院経済 平成22年卒)
苫小牧市音羽町一丁目番6号
TEL 0144(74)0385
URL: http://www.tanaka.com



平成27年度

北大経済学部同窓会・懇親会のご案内

総会に先立つ講演会は、来年春に函館まで延伸する北海道新幹線を取り上げ、その経済的意義や期待される効果などをテーマとしてパネルディスカッション形式で行われます。
この後、同窓会総会と懇親会を行います。都合に合わせてこれから参加頂いても構いません、是非お顔をお見せ下さい。

日時：平成27年9月26日(土)

- 講演会 14時～16時30分
人文社会科学総合教育研究棟 103号室
(博物館の対面、文系4学部の間です)
- 同窓会総会 16時45分～17時15分
講演会会場隣接の「2番教室」
- 懇親会 17時30分～19時30分
構内「中央食堂」2階

会費：3,000円(ご家族2,000円)

なおご出席の有無を9月15日までに下記宛てに連絡下さい。
当日受付も行います。

連絡先は北大経済学部同窓会事務局
月、木、金の午後は常駐しています。
☎ FAX 011-706-4113
メール dosokai@econ.hokudai.ac.jp

平成27年7月期 収支報告書

自 平成26年8月1日 至 平成27年7月31日

	項目	金額(円)	備考
収入	前期繰越金	4,427,505	
	会費収入	1,332,986	終身会費34名ほか
	広告収入	336,000	会報30号
	総会収入	99,000	
	その他	4,326	名簿売上、金利、寄付
	計	6,199,817	
支出	消耗品費	14,776	インク代ほか
	会議費	0	
	総会関連費	72,543	
	助成金	160,000	卒業祝賀会助成、優秀論文賞
	通信費	333,775	会報発送代241,740円ほか
	会報作成費	542,124	会報30号
	旅費	0	
	事務費	600,000	事務局実費
	印刷費	19,656	
	雑費	17,692	
	計	1,760,566	
	次期繰越金	4,439,251	
	合計	6,199,817	

会報編集委員

上野 昌美 (昭和47年卒) 編集委員長
高倉 嗣昌 (昭和36年卒)
斎藤 洲男 (昭和37年卒)
中川原 慶憲 (昭和41年卒)
佐藤 市雄 (昭和42年卒)
宮本 裕司 (昭和50年卒)
河合 愉美子 (昭和61年卒)
田中 賀代子 (平成7年卒)
岩本 栄一 (昭和49年卒) (事務局)

編集後記

- 5年ぶりに同窓会名簿(平成28年版)を発行することが決まり、現在その準備を始めております。縁あってこの北の大学に学んだ者が共有するプラットフォームとして、北大経済学部同窓会は1万人に及び会員の結束によって今後とも様々な活動を行ってまいります。そのためには同窓会と会員または会員相互が連絡できる会員情報の開示がどうしても必要です。残念ながら経済学部は道外勤務者が大半のため転勤などで連絡先不明者が多いのが現状です。どうかご理解をいただき、お手元に届けられる予定の調査票等の記入を宜しくお願い致します。
- 9月26日(土)ホームカミングデーの文系4学部合同企画は「北海道新幹線開業が意味するもの」と題して行われます。今年は経済学部が幹事ということで吉見経済学部長自ら司会をされ豪華パネリストを招いてのシンポジウムです。そのあとの懇親会も3000円(ご家族2000円)で楽しんでもいただけます。秋の一日、是非ご家族ご友人お誘い合わせのうえ気軽にお出掛け下さい。
- 今年の表紙は昭和52年卒の南幸衛さんが自筆のフランク像で飾ってくれました。この他にも北大構内のスケッチを寄せていただき、何れも味わいのあるタッチで描かれていてどれを載せようか迷ったほどでした。絵画以外にも家庭菜園や日曜大工とご趣味が広いようで、私などの無芸大食の身にはほんと羨ましい限りです。

(岩本 記)